



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

令和 7 年 度 第 4 号
令和 7 年 7 月 1 日 (火) 発行
さいたま市立宮原中学校
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp



『「こんにちは、ぼくドラえもんです。」～大山のぶ代さんの思いに触れて～』

校 長 田 中 和 浩



「夏河を 越すうれしさよ 手に草履」 与謝蕪村
「夕立や 草葉をつかむ むら雀」 与謝蕪村

先日、NHKの「あの人に会いたい」という番組で、大山のぶ代さんのインタビューを拝見する機会がありました。大山のぶさんはみなさんもお存じのとおり、アニメ「ドラえもん」の声を26年間担当された声優さんで、多くの子どもたちに愛された方です。ですが、中学時代には、その特徴的な声が原因で、いじめにあうことがあったそうです。そのときは「元気な私もさすがに落ち込んで無口になってしまった。」そうです。そんなとき、大山さんは、母親から、こんな言葉をかけられました。「弱いところはうんと使いなさい。そうすれば強くなるのよ。」と。大山さんは、母親の言葉に背中を押されて、次の日から放送研究部に入部しました。放送研究部では「かわいい声の娘ばかりだったから、放送劇の中では、ヒロインの役以外のお父さんの声も、お母さんの声も、子どもの声も全部、私が担当させてもらうことができた。」と言います。このことをきっかけとして、「自分の声はそれほど悪い声ではない。」と思えるようになり、演劇に夢中になっていきました。

「ドラえもん」では、出演していた声優のみなさんでひとつ、決めていたことがあったそうです。それは、小さい子どもが観る作品なのだから、悪い言葉を使わないようにしようということでした。ジャイアンはいじめっ子なのだけれども「バカヤロー」とか「コンチクショー」みたいな言葉は使いません。ドラえもんも、台本では一人称を「オレ」としていたものを、「こんにちは、ぼくドラえもんです」としたそうです。時代は変化し、ドラえもんの世界と現実とのギャップはどんどん広がってしまいます。けれども「だからこそ、子どもたちの言葉遣いはきちんとさせたい」という思いがあったようです。

大山さんは、役を離れても子どもたちは「ドラえもんのお婆さん」の言うことはよく聞いてくれた、と言います。サインをもらおうと順番を無視して列を乱そうとしたり、お礼の言葉が言えなかったりする子どもには、ぴしゃりと注意をしました。ドラえもんに出てくるドカン広場の脇に住む「カミナリさん」のように。見て見ぬふりをせずには叱ることとそ、大人の務めだ、と信じているからなんです。ともお話されていました。

先日、「いじめ撲滅月間」の取組として、私から「いじめ」について生徒に話をしました。話の中で、「悪い言葉をいつも使っている人は、そのような人になってしまうものに思える」「人を励ましたり、勇気づけたりする言葉をいつも使っている人は、そのような人になるものだ」という話をしました。

宮原中学校の生徒には、「人を傷つける言葉をつかわない、人を勇気づけられる人になってもらいたい」とそう思います。

(参考: Seigura.com HP)

***** いじめをなくすために *****

- 相手の外見や性格、行動などを批判する言葉を言うことをやめよう。
- 相手をからかったり、笑いものにしたりすることをやめよう。